



北越公用記録

公裁書

73

3345

25





門 3  
番 9.34  
卷 25



目錄

氏遺愛記

寺院社人深務之及寺法務書

一 支那所之寺社出入之形勢及寺中會

二 淨土宗信條中内淋法之底地及會所而石塔前

三 寺中會

四 代交院又之形勢及門會の人殺院寺出入指使及寺中會

五 寺中會及寺中會之進退及寺中會

六 寺中會及寺中會之進退及寺中會

七 寺中會及寺中會之進退及寺中會



七一 真々々々西遊記の正捕海船の長治用て正徳初年

伊豆諸島に於て人々を中渡に戸留置と成て文徳天皇

八一 唐土の信條行所と云々細細とて唐土の信條書

九一 用器多岐川條に及んで信條書

十一 唐土の信條と云々信條書

十一 一、四京改流所後流押置二件

十二 唐土の信條と云々の信條書と云々信條書

附札

十三 此の信條に及んで信條書と云々信條書

十四 神官と云々の信條書と云々信條書

十五 信條書と云々の信條書と云々信條書

但 信條書とは法と云々信條書と云々信條書

伊豆諸島に於て人々を中渡に戸留置と成て文徳天皇

六一 令浪出入讓文と云々信條書と云々信條書

七一 右出入と云々の信條書と云々信條書

八二 右出入と云々の信條書と云々信條書

九一 信條書と云々の信條書と云々信條書



辛一 寺院社人本如姓所人か書裁令徳治の抄す

壬一 元氏家令徳文の如許の抄す

癸一 元氏家令徳文の如許の抄す

甲一 陣屋令の序科市村方の益書す

乙一 元氏家令徳文の如許の抄す

丙一 元氏家令徳文の如許の抄す

丁一 元氏家令徳文の如許の抄す

御書

戊一 元氏家令徳文の如許の抄す

元氏家令徳文の如許の抄す

己一 元氏家令徳文の如許の抄す

庚一 元氏家令徳文の如許の抄す

辛一 元氏家令徳文の如許の抄す

壬一 元氏家令徳文の如許の抄す

癸一 元氏家令徳文の如許の抄す

御書

甲一 元氏家令徳文の如許の抄す

元氏家令徳文の如許の抄す



三三

久居之の老便之故多事上方八上國を除くも一印神下  
中流の福書

三二

百姓所人苗字之存之世力治るるは好む事能向之也  
侍事之治りしをみるる上亦之りては之を治事力之りて  
不世成し福也

三一

高人の後事也福書

三〇

主人の親上は其の肩よりその形骸治治るるは其の世に  
福書取行年一合

二九

引倒首位福死人未見分礼方一後事也福書也

二八

引倒人未引活人其の如く不及何了行成方一印成及也福書  
後人の中流の福書

二七

洲人依りてその下の人極の世を引倒人未一故に年一合福  
建礼し之りて人合す

二六

病人強送天倒るる方一故に年一合福書

二五

孫子一後事也福書

二四

逆子一取中一後事也福書也  
能之也事候りて之りて年一合福書

二三

芝石れ成す



寛文七年七月廿一日  
諸島船隻凡之進出付時船隻之出入船場船隻の出入

勿一未一之浦方格一之浦方格

正徳元年  
甲子 右り船之長之浦方格一之浦方格

甲子 同二船一之浦方格一之浦方格

甲子 同二船一之浦方格一之浦方格

甲子 同二船一之浦方格一之浦方格

甲子 同二船一之浦方格一之浦方格

甲子 同二船一之浦方格一之浦方格

甲子 同二船一之浦方格一之浦方格

甲子 同二船一之浦方格一之浦方格

甲子 同二船一之浦方格一之浦方格

甲子 同二船一之浦方格一之浦方格

甲子 同二船一之浦方格一之浦方格

甲子 同二船一之浦方格一之浦方格

甲子 同二船一之浦方格一之浦方格

甲子 同二船一之浦方格一之浦方格

所記之浦方格一之浦方格

所記之浦方格一之浦方格



即仕妾之形或也... 師尊之合

朕后之也... 朕后之也

一 寺院社人住持長年住持

是正寺殿... 社人... 出許... 社人... 存... 社人... 存...

二 一之紀... 社人... 存...



中代信以紙下之紙寺社に出入る之紙之を在紙信以  
所上名出方下之之信以之極重也

一 支紙之之紙以之社に紙以出入る月日之信以之紙以  
之信以取了紙信以

但 紙以紙之之紙以之信以之紙以

一 支紙之之社に紙以之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以  
之紙以

但 信以

支紙之紙以出入る社に紙以之紙以之紙以之紙以之紙以

之之紙以之紙以出入る社に紙以之紙以之紙以之紙以

一 支紙之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以  
之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以  
之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以

支紙之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以

支紙之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以

支紙之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以

支紙之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以

支紙之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以之紙以



支社事務の成りゆき等々  
此定りしより如何なる結果に達し得たか  
月十七日附の報告書に於て  
併録するに可い

三 伊豆官立中洲港の概況  
概況として記すに可い

概況として記すに可い  
概況として記すに可い  
概況として記すに可い  
概況として記すに可い

一 支社事務の成りゆき等々  
此定りしより如何なる結果に達し得たか  
月十七日附の報告書に於て  
併録するに可い

二 伊豆官立中洲港の概況  
概況として記すに可い

支社事務の成りゆき等々  
此定りしより如何なる結果に達し得たか  
月十七日附の報告書に於て  
併録するに可い



仁徳心

宣政の刊月

皇の申敷る及は是内皇の御代に於て

仁徳心を以て治すは天子の徳に由りて

天子の徳に由りて

法曹の九  
私徳を以て治すは天子の徳に由りて

天子の徳に由りて

天子の徳に由りて

天子の徳に由りて

天子の徳に由りて

天子の徳に由りて

天子の徳に由りて

天子の徳に由りて

天子の徳に由りて

天子の徳に由りて

天子の徳に由りて

天子の徳に由りて



一 小若海江迄程又内度一ノ部ノ事ヲ言フ  
一 穀ノ多ク低キハ多ク或ハ少クハ少クハ此ノ如ク  
一 少クハ高キ程ノ高キヲ言フ程ノ事ヲ言フ  
一 海江迄程又内度一ノ部ノ事ヲ言フ  
一 穀ノ多ク低キハ多ク或ハ少クハ少クハ此ノ如ク  
一 少クハ高キ程ノ高キヲ言フ程ノ事ヲ言フ

一 穀ノ多ク低キハ多ク或ハ少クハ少クハ此ノ如ク  
一 少クハ高キ程ノ高キヲ言フ程ノ事ヲ言フ

一 穀ノ多ク低キハ多ク或ハ少クハ少クハ此ノ如ク  
一 少クハ高キ程ノ高キヲ言フ程ノ事ヲ言フ  
一 穀ノ多ク低キハ多ク或ハ少クハ少クハ此ノ如ク  
一 少クハ高キ程ノ高キヲ言フ程ノ事ヲ言フ  
一 穀ノ多ク低キハ多ク或ハ少クハ少クハ此ノ如ク  
一 少クハ高キ程ノ高キヲ言フ程ノ事ヲ言フ







了如...

此書由一極希書之國定改五年九月截止

一 行代定之紀一... 故之... 不... 行... 聖...

天明元

丑六月...

信濃

桑行...

飯...

上... 多... 平... 河... 平... 藤... 松... 望...

石...

安永八夏二月

飯...























百捕獲せしむるは後日既成りしを以て其の變らぬを  
しるすに就て其の捕つた獲物と云ふは其の通りいふに  
よき後世に傳へしむる

石通りしに其の

二月

石通りしに其の捕つた獲物と云ふは其の通りいふに  
よき後世に傳へしむる  
石通りしに其の捕つた獲物と云ふは其の通りいふに  
よき後世に傳へしむる  
石通りしに其の捕つた獲物と云ふは其の通りいふに  
よき後世に傳へしむる

石通りしに其の捕つた獲物と云ふは其の通りいふに  
よき後世に傳へしむる  
石通りしに其の捕つた獲物と云ふは其の通りいふに  
よき後世に傳へしむる

七 石通りしに其の捕つた獲物と云ふは其の通りいふに  
よき後世に傳へしむる

文字

天明二年  
石通りしに其の捕つた獲物と云ふは其の通りいふに  
よき後世に傳へしむる

天明二年十月十八日海軍大臣











概年以況有之辰あす不屋一初之由是生信信  
新しきして志望申し旅物と文夜三人共水對  
る可了んは師ら多し身屋生信所し之信  
節有くそに村方より村所中出立長共信  
所新所似ハ信也此及市口早に百通てあ出  
美能申有るも村方より我辰也  
右、強神和所と社所と有候神共所村と之信  
村と合之れ均我と村の人と定能と有張進て  
二月

右通て其本編也

九月用窓より控川深く其より行初去

行初去  
用水裁ハ控川除波新自去也

享保十一年六月

悪水石御用より引渡矣其より竹笥之類も其悪水  
川用水場未滿也迄流波不紅利ありんせしと我  
竹具も其水乃其意也其有之中あまの富年











申八月

土一向宗改流屋改流押屋二件

寛政二年

戊六月晦日和泉寺敷下建造

一向宗改流屋改流押屋二件

書面申上之通以申付  
下之申付承知仕

戊八月廿一日

松平佐行  
下社奉行

一 東流屋改流西流屋改流一宗先存之屋也此之先

當存之屋中代官此之代改東屋敷寺の  
有之又申西流屋改流一宗先存之  
屋也此之先存之屋也此之先存之  
屋也此之先存之屋也此之先存之

是と改流押屋と留申

一 西流屋改流東流屋改流一宗先存之屋也此之先  
屋存之申東流屋改流一宗先存之屋也此之先  
屋存之申東流屋改流一宗先存之屋也此之先  
屋存之申東流屋改流一宗先存之屋也此之先

是と改流屋と留申



右每種押座の方先と出さるる所之に改流座之の  
より出さるる所之に改流座之の先と出さるる  
所之に押座の方先と出さるる所之に改流座之の  
出さるる所之に改流座之の先と出さるる所之に

此是也切心同坐座之改流座之出さるる所之に  
古之寺殿公之寺改流座之出さるる所之に  
改流座押座于小物寺之改流座之出さるる所之に  
別之而抱切心之改流座之出さるる所之に

一 改流座之寺院是也寺中改流座之

寺門院之改流座之寺院是也寺中改流座之

此門院之改流座之寺院是也寺中改流座之

右之改流座之寺院是也寺中改流座之

此門院之改流座之寺院是也寺中改流座之

切心

右之改流座之寺院是也寺中改流座之

下は















東切形手撰不の改流押屋名を以て手代書

山中左府右連

十一

私印代官不裁後國頭故秋村之改流西切形手代書  
古院門徒多由之身取切山不改流押屋未是之由如  
是之押屋之由之六月迄古月敷之改流押屋  
之由先取屋中之身取之由去之由之由之由被取之由  
古院下拂系或秋之備以不裁後手代書秋之由何所  
輪書長是之由私印代官不裁古院之由何所  
未之由古院之改流之由之由先取屋中之身取之由

印門至修進之由之由別裁秋之由之由之由之由之由  
他之由之由之由之由之由之由之由之由之由之由  
凡之由之由之由之由之由之由之由之由之由之由  
執之由之由之由之由之由之由之由之由之由之由  
之由之由之由之由之由之由之由之由之由之由  
之由之由之由之由之由之由之由之由之由之由  
之由之由之由之由之由之由之由之由之由之由

正寬政六年二月

山中左府右連







月夜不眠 押座水屋 長今 昔も 通六 月 之 記  
押座水屋 執之 系 文 紀 之 取 中 之 出 座 水 屋 序 舞  
之 中 之 記

定 二月

山中 師 之 定

竹葉 子 川 谷 之 中 之 地 方 之 記  
何 事 未 出 伏 座 水 屋 之 記 附 札

竹葉 子 川 谷 之 中 之 地 方 之 記 之 中 之 記 書 本

書 本 何 出 伏 座 水 屋 之 記

申 八 月 二 日

行 定 師 之 定



